

活動事項	鳥取県議会「会派民主」と島根県議会「民主県民クラブ」 との合同研修会
活動年月日	2020年10月26日（月）～27日（火）
場 所	島根県議会議事堂別館他
活動の相手方	島根県立情報科学高等学校他
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】鳥取・島根両県における諸課題について、現地事例等の調査や会派間の情報交換を通じ、施策提言や会派活動に資する</p> <p>【内容】</p> <p>令和2年10月26日（月）午前10時から午後17時</p> <p>① 島根県立情報科学高等学校（10：00～11：00） コロナ禍におけるICTを活用した取組について（新型コロナウイルスの影響による学校休校中のICTを活用した学習について、休校中に試行された取組や課題、市町村や関係機関との連携について）</p> <p>② 安来市加納美術館（11：20～12：15） 加納莞薔が抱いた平和への思いについて</p> <p>③ えーひだカンパニー株式会社（13：15～15：15） 小さな拠点づくりについて（取組の概要、モデル事業について）</p> <p>④ 島根県農林水産部農畜産課畜産室（16：20～17：00） 食の安全・安心（畜産物）の取組について、島根和牛の生産～と畜～付加価値販売の取組について</p> <p>令和2年10月27日（火）午前9時から午後15時</p> <p>⑤ 地域・教育魅力化プラットフォーム、雲南市教育委員会（9：00～11：00） 教育の魅力化の取組（隠岐島前高等学校での取組からこれまで、コロナ禍における影響、今後の方向性、雲南市教育委員会における魅力化の取組）</p> <p>⑥ 島根県地域振興部しまね暮らし推進課（11：05～11：50） 関係人口の取組について</p> <p>⑦ 劇団あしづえ（13：30～15：00） コロナ後の文化芸術活動について（NPO法人あしづえの歩み、演劇、文化の力、コロナ禍における現状と課題）</p> <p>【結果（成果）等】</p> <p>コロナに対応した遠隔授業の実際、小さな拠点づくり実践、和牛付加価値販売の実際、地域・教育魅力化プラットフォーム等興味深い先進事例を勉強させていただいた。</p> <p>特に、「地域・教育魅力化プラットフォーム」岩本悠氏のお話は鳥取県の高校の参考になる取組であった。ぜひ、鳥取県教育行政に生かしていきたい。</p>
関連領収書番号	10-4、3-14

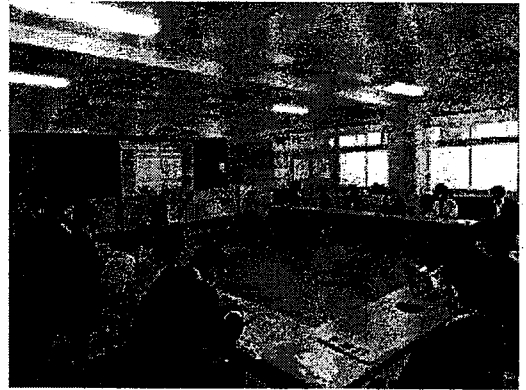
令和2年度鳥取県議会「会派民主」と鳥根県議会「民主県民クラブ」合同研修会
報告書

- 開催日時 令和2年10月26日（月）、27日（火）
○場 所 鳥根県立情報科学高等学校ほか県内6カ所を調査（別紙実施要領のとおり）
○出席議員 別紙参加者名簿のとおり

○内 容

1. 鳥根県立情報科学高等学校

コロナ禍におけるICTを活用したリモート学習の取組について調査を行った。この学校は、ICTを専門とした学校。今後リモート学習を進めていくにあたり、教師側に普通の授業とは違ったスキルが必要であること、リモート学習のための汎用ソフトが利用できるパソコンの導入が必要であることなどが課題である。



2. 安来市加納美術館

加納美術館は、戦犯としてフィリピンで投獄された旧日本兵の助命に尽くした、鳥根県出身の画家・加納莞薔の美術館である。加納莞薔は、来年度社会科の教科書に取り上げられることになっており、また、コロナの影響により県外への修学旅行が難しいなか、加納美術館としては初めて修学旅行生を受け入れることなど、平和への取組に広がりを見せている。

3. えーひだカンパニー株式会社

県の先進事例である安来市比田地区における小さな拠点づくりについて調査を行った。この地区では、平成27年度から複数の地域おこし協力隊を受け入れ、まちづくりのために「いきいき比田の里活性化プロジェクト」をスタート。その活動の母体となる「えーひだカンパニー株式会社」を立ち上げた。福祉、交通などの「自治機能」と、農業などの「生産機能」を両輪として、お金と人を循環させ、自立した地域づくりを計画的に行える仕組みとなっている。最初は想いのある人が有志で始め、徐々に周りに呼び掛け、だんだん関わる人が増えてきた。地区外からの評価が高まったことも大きい。県のモデル地区推進事業にも是非挑戦したいと手を挙げた。今春改装オープンした直売店舗「えーひだ市場」の見学を行った。



4. 島根県農林水産部農畜産課畜産室

島根県の畜産の概要、美味しまね認証を中心とした食の安全・安心の取組について、調査を行った。認証基準は、HACCPをベースとして、JGAPにも匹敵するものであり、認証取得支援をとおして、畜産農家の食の安全・安心の取組が浸透している。また、畜産農家が取り組んでいる抗生物質を使用しないことを付加価値とした島根和牛の販売戦略についても紹介された。

5. 地域・教育魅力化プラットフォーム、雲南市教育委員会

教育魅力化の取組について調査を行った。隠岐島前高校では、非常に同質性の高い空間に、県外の子どもという異質なものを取り入れたことで、さまざまなぶつかり合いや葛藤が生まれ、活力となった。結果、生徒数の増につながった。高校は人材流出の出口ではなく、人材環流の要所。高校を卒業するまでにどれだけのことができるかが、将来の関係人口やUIターンにつながる。高校は、幼小中までのふるさと教育等が途切れ、施策の空白地帯であるとの危機感を持つこと。雲南市教育委員会では、教育魅力化に取り組む市内高校生と地元中学生との出会いの場をつくるなど、高校の教育魅力化事業と連携した取組が展開されている。

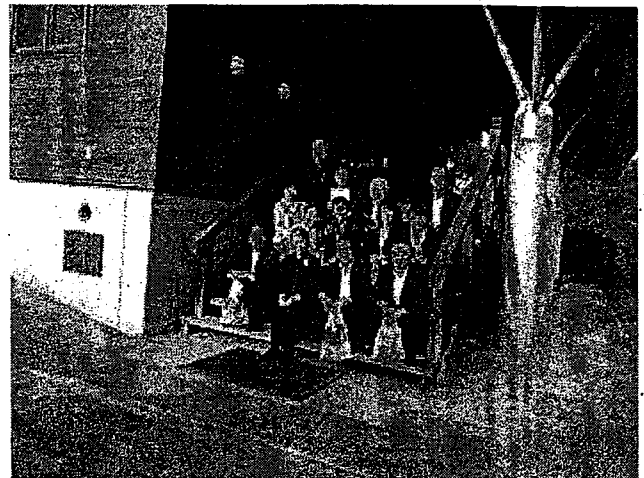


6. 島根県地域振興部しまね暮らし推進課

関係人口の取組について調査を行った。都市部にいながらなんらかの形で島根に関わりたい人を掘り起こし、活動の場を提供し、地域活性化、移住につなげることを目指してはいるが、必ずしも移住を目的としていない。しまコトアカデミー（今年度はしまコトDIGITAL。40名が参加）では、約5ヶ月の長期にわたって、参加者自身の思いを創っていくことで、UIターンや都市部での活動につながっている。関係人口は島根県が発祥の地であり、県の取組が認められ、国の施策にもなったもの。

7. 劇団あしぶえ

しいの実シアター、松江・森の演劇祭、表現ワークショップなど、あしぶえの歴史や活動について調査を行った。50年もの長い時間をかけて、団員の思いと努力、地域に育てられ、支えられて今に至っている。AIの時代になっても、創造的な仕事は重要であり、地域の文化を育てていくことが大切である。



(以上)